



「のこったのこった！」

8月27日、川湯神社祭典奉納相撲大会での1コマ。川湯保育園、川湯小・中学校から子どもたちが参加。一番一番力の入った大相撲が行われ、大歓声が上がっていました。(関連記事20ページ)

Public relations magazine

2018.10 No.770

てしかが

主な内容

- 新たな地域おこし協力隊員が着任……②
- デマンドバスの実証実験を行います…④
- 防災ワンポイントコーナー……⑧
- てしかが観光塾を開催します……⑩
- 釧路地域北海道議会議員補欠選挙……⑬
- 町税などの納期限/夜間納税窓口開設…⑰

むかしむか史 (336)

てしかが歴史写真館 210
ふしむか史



久摺日誌に描かれた挿絵の1枚。武四郎さんとアイヌの友好関係を表しています。

月雪花 実に異郷の趣をぞなしぬ

—松浦武四郎メモリアルイヤー—

武四郎さんは3日間にわたって屋斜路湖畔に滞在しましたが、実は食糧の到着を待つためでもありました。行く先々で出会うアイヌの人たちへ渡す分は道中で補充する段取りをしており、予定ではテシカガ(釧路川にかかる現在の「弟子屈橋」付近)で米などを受け取るようになっていましたが、届いていなかったのです。

クッチャロ(当時の集落)に住むアイヌの人たちは、不漁続きで栄養状態がよくありませんでした。武四郎さんは持ち歩いていた米で粥を作り、30人ほどにふるまいましたが到底足りません。

次なる地へ出発する際、手持ちの食糧が乏しかったので銀貨を出し、「干し魚の貯えがあったら買いたい」と頼みます。しかし断られてしまいました。考えた末に、真鍮でできた刀の古い鏝を差し出しました。すると、保存してあった干し魚を持って来てくれたのです。そのときのように、「金銀よりもモノの方を貴いとする、素朴な考え方に深く感動した」と書き残しています。

帰途は、釧路川を小舟で下ることになりました。雨が雪に変わり、この日の晩はテシカガで止宿。寒さで夜中に目を覚ました武四郎さんが外に出ると、雲間からは見え隠れする十三夜の月、今を盛りに咲く庭の桜、その花の上にちらちらと降る雪が目映りました。

さえわたる月に起き出て眺むれば花ふきませで淡雪ぞふる

「これぞ異郷の蝦夷地にいる」という感慨を深くしたと記す、弟子屈での一場面です。

てしかが郷土研究会(斎藤)

てしかが 2018.10

毎月1回発行 発行/弟子屈町 編集/まちづくり政策課 ☎482-2913 ☎482-2696 〒088-3292 弟子屈町中央2丁目3番1号 URL <http://www.town.teshikaga.hokkaido.jp/>